

ステークホルダーコミュニケーション

日本ユニシスグループは、あらゆるステークホルダーのみなさまにさまざまなメディアを通じて、適時、公正な情報発信を行っています。さらに、直接あるいはWeb媒体の特性を活かした双方向コミュニケーションの機会を持つことにより、ステークホルダーのみなさまとの対話を実現しています。

お客さま、社会と

日ごろの営業活動やユーザー会「ユニシス研究会」の活動を通じてお客さまとコミュニケーションを図るほか、事業活動や従業員によるボランティア活動を通じて広く社会とも接しています。

さらに、マガジン・Webサイト・電子メールによる広報メディア「Club Unisys」が”日本ユニシスの今”をお伝えして



います。ITの世界に関わるビジネスマン・技術者のみなさまが参考になる情報を、日本ユニシスグループの従業員やお客さまの声を交えながら発信します。

従業員と

グループイントラネット「Team Unisys」

日本ユニシスグループ共通のイントラネットコンテンツ。グループ従業員間の情報共有を図りながら、「Team Unisys」として一体感を持って事業を推進していくために、全グループ従業員に向けて、正確かつタイムリーに各種情報を提供しています。



グループ社内報「Heartware」

2002年10月から「紙媒体をWeb媒体に」「対象をグループ全体に」のコンセプトで全面リニューアル。グループ従業員間のコミュニケーションの場として、部門や会社そして役職の壁を越えた「タテ・ヨコ・ナナメのコミュニケーション」をグループの中に創り出しています。隔月で発刊。



株主・投資家のみなさまと

日本ユニシスでは、株主・投資家のみなさまに対して、適切に透明性の高い情報開示を行い信頼の向上を図るとともに、企業価値の適正な評価とブランド力の向上を目指して積極的なIR活動を推進しています。当社の事業活動、経営戦略をご理解いただけるよう、業績説明会などを実施し投資家やアナリストのみなさまとのコミュニケーションを積極的に行っています。また、アニュアルレポートや事業報告書などを発行するとともに、それらすべての情報は、ホームページ上でも閲覧できるようにしています。

今後も、投資家やアナリストのみなさまとのコミュニケーションによっていただいたご意見を当社経営に活かすとともに、当社への理解をより一層深めていただくための活動を推進していきます。



報道関係のみなさまと

日本ユニシスグループは報道関係者に対し、記者発表会、ニュースリリース、取材対応などを通じ、適時、適切で公平、公正な情報提供を行っています。さらに、さまざまな意見交換会による双方向のコミュニケーション機会を設け、当

グループについてより正確に理解していただくための活動を行っています。



ユニシスは貴種性のある会社だと思っている。弾道計算の必要から開発された世界最初のコンピュータENIACが米陸軍に収められたのが1946年で、その技術基盤の上に最初の汎用コンピュータUNIVAC Iが開発されたのが1950年であった。以来、今日のユニシスに至る企業活動が世界の情報技術の進化を支えてきたといっても過言ではないからである。つまり、情報技術に関わるビジネス・モデルの原型を創造してきたのである。

日本では、1955年に三井物産を通じて東京証券取引所と野村證券に最初のコンピュータが導入され、1958年に日本レミントン・ユニバック社が設立されたが、昨今「IT革命」と呼ばれる時代潮流の担い手として日本ユニシスが継続的に果してきた役割を忘れることはできない。

CSRの重要性が叫ばれる此の頃だが、企業が社会システムの一翼を担う存在である限り、社会貢献は当然のことであり、本筋として大切なのは本業としての事業活動を通じて社会に貢献することである。その意味で、日本ユニシスグループが「ITが人と社会にできること」を掲げて徹底して本来の企業活動を通じた社会的役割を探求していることは正しいと思う。

「会社は誰のものか」という問いに、株主価値最大化を目指す米国流の株主資本主義が勢いを得がちな傾向の中で、日本ユニシスグループが「顧客価値創造」を志向して「社会、顧客、株主、従業員にとり魅力ある企業」を目指そうとしていることは、当たり前のようにいて意味深い決意だと思う。米国製のコンピュータという機械を売る会社から、顧客の抱える課題をITを活用して解決する会社へと進化しようと積み上げてきた日本ユニシスの思想が凝縮しているからである。

日本ユニシスグループのCSR活動における理念と実践は、なすべきことをバランス良く展開していると総括してよい。今後への期待としては、日本ユニシスグループでなければなせないCSRの個性を際立たせることを指摘したい。例えば、環境問題や貧困の克服、世界遺産の保全などという課題において、優先プロジェクトを選別し、グループのソフト・パワーを集中投入すれば、人々の心に残る輪郭のある貢献ができるはずである。

日本ユニシスグループ 「CSR報告書」 第三者所感

財団法人日本総合研究所理事長
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授
寺島 実郎



日本ユニシス株式会社

〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1 TEL.03-5546-4111 (大代表)

<http://www.unisys.co.jp/>

